

府立高校の在り方ビジョン(仮称)【中間案】に対する意見募集結果

- 1 意見募集期間 令和3年12月20日(月)～令和4年1月14日(金)
2 意見提出者数 55人・164案件

パブリックコメント
(御意見の要旨)

第1部 府立高校を取り巻く現状と課題

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 社会の急激な変化 | 2 公立中学校卒業生数の減少 |
| 3 公立中学校卒業生の進路状況の変化 | 4 生徒の多様化 |
| 5 設置学科の状況 | 6 地域創生における府立高校の役割 |

| | |
|----|---|
| 1 | 公立中学校卒業生数の減少について、府立高校の小規模化が進行する中での授業科目の確保や、学校行事・部活動の実施等における課題に対しては、コロナ禍の分散登校において、少人数学級・少人数講座の良さが再認識されている。小規模校においても授業科目を保障できるようにするのが大切ではないか。財政的な課題はあるが、教員定数の増が望まれる。 学校行事でも、小規模校なりの良さを追求するとともに、複数の学校が交流する形の行事を新たに創設するといった工夫も考えられるのではないか。学校の枠を超えた取組によって、生徒も教職員も大きく成長する場となり、新学習指導要領にある「思考・判断・表現」の力や「学びに向かう力・人間性」を育む上でも有効ではないか。 |
| 2 | 公立中学校卒業生の進路状況の変化について、アンケート結果における学校選択の理由の上位が「近くて通いやすい」事に注目すべきではないか。特色のある高校以外の学校は地域性(総合選抜)に戻すという選択も、定員割れをなくす上では有効ではないか。誰もが自宅から通いやすい学校に行けて、基礎学力、大学進学に必要な学力をつけることを保障するのが、公立高校の役割ではないか。 国の制度が拡充する中、京都府独自の「京都府あんしん修学支援制度」についても、検証する必要があるのではないか。 |
| 3 | 現行の入学選抜制度について、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮した… 選抜日程が過密化」と記載されている。他の課題(中期選抜を受検しない、選抜制度が複雑)は中学生から見たものであるが、コロナ禍による選抜日程の過密化については、濃厚接触者等への追加検査を設ける試験実施側の負担増加が課題であり、中学生から見れば、濃厚接触者等の受検機会の確保につながるものである。誰にとつての課題なのか区別して記載するべきではないか。 |
| 4 | 生徒の多様化に対して、多様な選択肢を準備することは大切だが、多様な生徒を受け入れるための余裕やゆとり、教職員体制が必要ではないか。高校が多様になるほど、中学生が自分に合った学校を選ぶことは難しくなると思う。 多様性に対応した教育を進めるための教員の資質能力の向上について、総合的に学びをコーディネートする力を高める事に関しては、現在の府立高校では学校によって課題が異なっているため、教職員の人事配置や異動も重要な要素である。教職員の力量は実践の中で磨かれるものであり、研修によって身につけさせることだけではないと思う。 |
| 5 | 生徒数は減少傾向であるが、生徒の多様性に応える教育の充実は必須であると思う。社会情勢が刻々と変化の中で、子どもたちの生活や学びに大きな影響を及ぼし、個別の支援の重要性、不登校、子どもの貧困、ヤングケアラーなど、さまざまな背景にスポットを当て、福祉の視点を盛り込みながら、誰一人取り残すことのない教育活動を進めることが必要だと思う。 |
| 6 | 日本語を母語としない生徒など多様な生徒のニーズに対応するためには、個に応じた指導や必要な支援などを行うための教員体制の整備や、柔軟性のあるカリキュラムが必要である。 |
| 7 | 府立高校の現状において、入学後に中途退学する生徒等の状況を踏まえると、進路変更のしやすさなどの個々のニーズへの対応は、入学時だけに限られるものではないと思う。 |
| 8 | 普通科においても生徒が多様化しており、旧来のように理系クラスと文系クラスに分かれ、非常に限定された範囲内で進路選択をするというのではなくなっている。その中で、各高校が努力し、生徒や保護者の希望を叶えられるような文理選択や進路先の検討など、多様化に対応していると思う。 今後、生徒の要望を一層叶えられるように、現在の40人を基本としたクラス編成について、2年次以降のクラス編成等で教員の指導力が発揮できるような工夫が必要ではないか。 |
| 9 | 設置学科の状況について、普通科のコースが多様化したのは、各学校の特色化を進めてきたからではないか。高校選択の主要な要素は、将来の職業選択や「文系」「理系」などの希望進路よりも、「近くて通いやすいか」「やりたい部活動があるか」であり、学習活動と行事や部活動などが普通に両立できる学校を目指すべきではないか。 |
| 10 | 府立高校が地域創生において社会的役割を果たすことに関し、府立高校の在り方ビジョン(仮称)ではどのような特徴的な要素を示しているのか。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

第2部 令和時代に対応した京都府の高校教育の在り方

Ⅰ 基本的な考え方

- 1 本府教育の基本理念・施策推進の視点
- 2 府立高校の果たすべき役割
- 3 府立高校の魅力を高めるための視点

| | |
|----|---|
| 11 | 多様な子どもたち一人一人を大切にし、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばす教育という視点を大切にして施策を進めてほしい。 |
| 12 | 基本理念について、他者への思いやりに関わる視点も必要ではないか。個を活かして、公に生きるといった観点において、自己肯定感だけでなく、使命感も重要ではないか。 |
| 13 | 未来の創り手としての高校生には、生きている社会に対する興味や関心を高めることが求められる。若者の社会に対する関心が高まらない背景には、学校の校則などの厳しさや、学校での自治体験の欠如を指摘する声もある。学習指導要領が求める「未来の創り手」を育成するためには、クラスや学校をどのように創っていくのかという経験と、学校教育のさまざまな場面で社会的な関心を高めていく取組が必要である。そのような観点からも、府立高校の在り方を検討するべきだと思う。 |
| 14 | 府立高校が果たすべき役割について、公教育の場として教育の機会を保障するとともに、選択肢の多様性を確保することを第一義的に捉え、幅広く多様な生徒を受け入れることなどについて共感する。 京都府は人口に対して私立高校の数が多地域であり、私立高校と違いを見せる中で、授業料の減額などの教育の機会保障について、公私の違いを明らかにすることも必要だと考える。公立高校に受検者が集まらない中で、学校の再編や募集定員の調整等は一定必要だと思うが、入学者数の減少によって必要以上に学校が再編されないか心配である。 |
| 15 | 府内の円滑な高校教育に向けて、私立高校との協調、生徒受入等について公私立高等学校協議会での協議が記載されている。京都市は府とともに公立高校を設置し、選抜制度の運営などの役割を果たしている。京都市立高校や京都市教育委員会との連携について、明記されるべきではないか。 |
| 16 | 様々な制度が整えられる中で、経済的理由によって私立より公立を薦めることが難しくなってきた。学校の魅力で勝負することは大前提だが、公立に何か具体的な利点はないのか。 私立では授業料は減免されたとしても施設費等で最終的に多額の費用負担が必要ではないかと思う。 府立においてもタブレット端末等に関わる補助等は考えられないのか。 |
| 17 | 私立高校への志願者が増えており、公立高校の前期選抜で不合格となった場合には中期選抜の受検辞退などの実態がある。そうした状況も踏まえて、私立高校との協調の在り方を検討すべきではないか。 |
| 18 | 公立高校募集定員の未充足は、募集定員の公私の比率によるものであると思う。進路状況の変化によって私立高校進学者が増加し、公立高校進学者が減少したと考える。公立の生徒数減少等を理由に新たな再編整備の検討の方向が示されているが、公私における募集定員の適正化を先行すべきであると思う。 |
| 19 | 府立高校に関するアンケート調査の結果(概要)が紹介され、生徒たちが求めているものとして「自らが目指す進路を実現できる学力と資格などを身につけられる学習指導と、部活動や学校行事などの教育活動がバランス良く充実していること、また、高校生活を通じた豊かな人間関係づくり」とまとめられている部分には共感できる。文中で「主に普通科に在籍する生徒を中心に、多くの生徒が、近くて通いやすいことを理由に府立高校を選択していることが明らかになった。」と紹介されているが、その根拠となる数字は示されておらず、高校の特色で選んだ生徒の割合も含めて、高校を選んだ強い理由を1つ選ばせる質問についての回答結果を、アンケート調査の結果(概要)に加えていただければと思う。 |
| 20 | アンケート結果によると、部活動の次に学校行事(文化祭、体育祭等)に生徒たちは魅力を感じている。コロナ禍での制約がある中で、研修旅行に参加した生徒たちは喜んでいたという話をきくと、高校生活における特別活動の重要性を再認識する。 学習や部活動を中心とする日常と、文化祭や研修旅行等の非日常とがバランスよく設定配置された、生徒にとって魅力的な教育課程づくりが求められていると思う。学校行事の準備等に集団で取り組み、主体的、対話的に解決する経験を積み重ねることは、主権者教育や人間としての在り方等を深めていく観点から重要であると思う。 生徒たちにとっての魅力でもある学校行事や自主活動等の特別活動を、ビジョンの中でももう少し前面に打ち出すべきではないか。 |
| 21 | 府立高校の魅力を高めるための視点について、部活動や学校行事については、生徒一人一人が輝き、豊かな人間性を育むといった観点から重要な要素であると思う。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|----|--|
| 22 | <p>改善してほしいことで「教室・トイレ等の施設設備」が1位になることはよく理解できる。金銭的負担も軽減された私立を選ぶのは当然かとも思う。予算面で改善が難しいのであれば、第2位の「スマホ等の利用」について検討すべきと思う。1人1台端末の導入が府立高校の満足度につながるカギではないかと思う。</p> |
| 23 | <p>基本的な考え方について、高校を多様化するよりも、一つの高校に多様な生徒を受け入れられることの方が重要ではないか。アンケート結果からは、近くて通いやすい場所に、学習指導と部活動や行事などの教育活動のバランスの取れた学校があることが重要であり、施設設備を充実させることが求められていると思う。</p> <p>地域と密接に結びついた公立高校にすることで、小・中学校との連携、地域の特別支援学校や福祉施設との連携もしやすくなり、不登校傾向のある生徒、特別な支援の必要な生徒、ヤングケアラーなどの課題に対しては、福祉との連携が地域を基礎にしている方が対応しやすいと思う。</p> |
| 24 | <p>府立高校に関するアンケート調査での高校生の声を丁寧にくみとって、方針に反映してほしい。生徒たちの声を聞くことは素晴らしいことであり、継続して取り組んでほしい。京都府の教育をよりよくする議論の土台としてほしい。</p> <p>生徒たちが不満に感じている理由について、上位の「授業」や「校風・教育方針」、「学校の施設」については、真摯に受け止める必要があると思う。改善してほしいことの上位は「施設設備」「スマホ等の利用」「校則」であり、これは高校生たちの本音であろうと思う。学校は学習する場であるとともに、「居場所」「社会性・社交性」「余暇・教養」「自主・自立」など様々な機能を有する可能性を伸ばす場であると思う。主に普通科に在籍する生徒を中心に、多くの生徒が近くて通いやすいことを理由に府立高校を選択していることも、重要な要素だと思う。</p> |
| 25 | <p>府立高校の30人学級を「府立高校の強み」にできないか。学校規模は6学級(240人)程度が生徒理解も進み、丁寧に指導ができると思う。「子育て環境日本一」を目指す京都府では、公立高校では世界基準の30人程度学級を実施して、「主体的で対話的な授業」を展開してほしい。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

II 魅力ある府立高校づくり

1 府立高校における魅力的な学びの充実

- (1) スクール・ミッションの再定義
- (2) 新しい時代に応じた探究的な学びや学習スタイルの構築
- (3) 地域や企業、高等教育機関・研究機関等との連携強化
- (4) スケールメリットを活かした学習環境の向上
- (5) グローバル人材の育成
- (6) 教員の資質能力の向上と学校体制・指導体制の充実
- (7) 学びを支える教育環境の充実
- (8) 発信力の強化

| | |
|----|---|
| 26 | スクールミッションの再定義について、大学のアドミッションポリシーが重要視されるように、府立学校としてのスクールミッションによる各校のスクールポリシーを明確に打ち出すことで、各校の特色と求める生徒像が分かりやすくなるのではないかと。 |
| 27 | 府立高校ならではのスクール・ミッションについて、スクール・ミッションが従来の校是とは異なることを明記すべきではないかと。府立高校ならではの強みには、地域との関係性があるが、グローバル時代においてはスケールの大きな人材を育てることも大切だと思う。 |
| 28 | 次年度以降にスクール・ミッションやスクール・ポリシーが定められていく方向性であるが、現状での各校の違いや役割を踏まえて明確化していくべきであると思う。 |
| 29 | 地域の強い要望を受けて設立された歴史ある高校等においては、公立高校として、その社会的な役割を果たしていくべきである。 |
| 30 | 地元の公立高校ではなく私立高校に進学する生徒は少なくない。府立高校は地元にあるだけでなく、地元に貢献したり地元で活躍したりする場面が大切だと感じる。私立への支援金が大幅に増えたことで、私立と公立との経済的負担との差が少なくなったことから、より魅力ある内容が求められる。 |
| 31 | 地域や企業、高等教育機関・研究機関との連携強化について、特に地方都市では生徒たちの地域や地域貢献への関心は高く、地域や行政との連携は府立学校の大きな特色と力になると考える。 また、職業教育における企業との産学連携は、大学に加えて高校とも連携すべきである。高校の職業系専門学科に対する企業側の期待は大きいのではないかと。 高等教育機関、特に高大連携は是非進めるべきである。大学に地域貢献が求められる中で高校との連携は効果的であり、高校と大学が共にウィンウィンの関係を構築できるのではないかと。私立大学附属高校の人气が高いが、公立大学附属高校も他府県では取組み始めている。京都府であれば、京都府立大学や福知山公立大学は地域貢献も含めた連携ができるのではないかと。 |
| 32 | 丹後地域に移住した人たちが、例えば高等学校で行われている授業を受講できるようなシステムがあれば、地域とつながり、地域の中での役割も果たせるような開かれた高等教育につながることもあるかもしれない。様々な方法を模索しながら、京都府全体が発展していけるように検討してほしい。 |
| 33 | 地球規模の気候変動、少子高齢化などの時代の中で、教育の目的が「企業が求める人材確保」でいいのかなど、見直しが求められていると思う。地球規模の課題解決を進めるグローバル人材の育成も重要だが、地域で学び、大学進学で地域を離れても地域に帰って就職し、地域を支える人材を育てる必要があると思う。持続可能な社会を担う人材の育成に向けた地域密着型の高校の設置や、一定数を地域枠にするなどの工夫が必要ではないかと。今後、高校生を含む当事者に開かれた論議の場を設け、将来に展望がもてるビジョンづくりを丁寧に進めてほしい。 |
| 34 | 改正民法による成年年齢の引き下げを踏まえて、どのような議論がなされていたのか。 また、2021年12月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に国立大の定員増が盛り込まれ、文部科学省は定員増の要件として、地元の自治体、企業との連携組織を設置して産業創出等へ貢献することや、地元就職者向けの奨学金制度の創設などを挙げていることに関し、府立高校の在り方ビジョン(仮称)[中間案]では、どのような議論がなされていたのか。 |
| 35 | 大学や地域、企業との連携については、高校生活や教育活動の中でどのように取り入れていくのか。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|----|--|
| 36 | 異なる課程の併修による柔軟な教科・科目等履修制度の構築では、学校間連携の観点も必要ではないかと思う。例えば、清明高校等の柔軟なシステムと組み合わせて、進級・卒業に向けて通信制のシステムを活用するようなことも考えられるのではないか。 |
| 37 | 府立高校内留学の仕組みづくりについて、生徒の可能性を最大限伸ばすためとあるが、具体的な学びのイメージが分かりにくい。教育課程の連続性や単位認定等の課題もあると思うが、短期留学する生徒自身への効果や留学で学ぶ領域の例示等があれば、イメージしやすいと思う。 |
| 38 | 府立高校内留学については、これまでにない非常に興味深い取組である。生徒数が減少している北部地域への留学によって、高校や地域の活性化にもつながるのではないか。 |
| 39 | 府立高校のスケールメリットを活かした教育活動、単独の高校では難しい取組の拡大について、生徒数の減少等で部員数の確保が難しくなっている部活動の状況や、生徒たちが部活動に魅力を感じていることを考慮すると、学校間の距離が近い京都市・乙訓地域や山城地域等では、近隣の府立高校間で日常的に合同部活動を行う機会の拡充等が考えられる。 |
| 40 | 国際バカロレア認定校の導入や教育システムの活用について、認定校になることなくその教育システムを使うことができるのか。国際バカロレア校は費用負担の課題もあるが、多様な選択肢の一つとして府立高校に設置するのは魅力的だと思う。 |
| 41 | グローバル人材の育成について、「国際人」としての評価は自分の国や地域の歴史を理解し、誇りを持てることであると思うので、方向性は評価できる。発想力や行動力、コミュニケーション力といった人間力を育てる機会を増やし、真のグローバル人材の育成を目指してほしい。 |
| 42 | 学校体制等の充実に関わっては、教員のみでなく学校を支える事務室など、学校教職員全体での視点が必要ではないか。 |
| 43 | 教員の資質能力の向上と学校体制・指導体制の充実について、これからの府立高校の在り方として「教員」にのみ焦点化されているが、「チーム学校」といわれるように、学校の組織力を発揮するという意味において不十分ではないか。やはり全ての「教職員」に課せられた課題という視点で検討してほしい。 |
| 44 | 教員の資質能力の向上と学校体制・指導体制の充実について、外部人材の活用に関しては、地域との連携で例示されているコーディネーターも含めるべきではないか。また、校長の同一校における在職期間の長期化については、一律的に全ての校長を想定したものであるのか。 |
| 45 | 探究的な学びを推進するには、より一層教科横断的な学びを構築できる教員が求められる。特定分野に精通したスペシャリストよりも、総合的な視野で物事を捉えられるジェネラリストの素養がより求められることになると思う。その一方で浅薄な知識・技能の寄せ集めでは深い学びに繋がらないため、「深く」「広い」知識・技能を有する教員が求められる。 学校現場では、情報と地歴科(地理)の人材が不足しているとも思う。教員採用において、これらの人材を見極め採用する仕組みを構築し、専門性の高い人材を確保してほしい。 |
| 46 | 教員の資質能力の向上と学校体制・指導体制の充実について、優秀な教職員の確保に向けて、教員志願者が増えるよう、子どもたちにあこがれを感じさせるような教職員としてのステータスを確立していくことも検討すべきではないか。 |
| 47 | 府立高校の多様性に対応した教育を進めるためには、多様な実践や経験のある教員の人材確保が必要ではないか。 |
| 48 | 人材育成の観点から、生徒のみならず、人事異動が少ない職業学科教員の他府県・政令市、民間企業等との人事交流(短期留学含む)の推進も必要ではないか。それによって最先端技術への知見を高めるなど、資質能力の向上も可能になる。 |
| 49 | 公立高校として、教職員の人事異動等においては、各高校の特色化に応じたスペシャリストの育成とともに、多様な実践や経験を通じたジェネラリストの育成も求められており、個々の教員の資質能力や学校の特色など、考慮すべき課題があると思う。 |
| 50 | 生徒の指導に関わる教員の勤務改善が、指導力の向上には重要な要素であり、個別最適の学び、協働的な学びの推進などに向けて必要であると思う。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|----|---|
| 51 | 教員の資質能力の向上と学校体制・指導体制の充実について、特に専門的スタッフや外部人材の活用は、ICT活用、部活動、寮運営や施設管理等で積極的に進めてほしい。 |
| 52 | 運動部における目標や目的を達成するためには、活動の質や時間が必要であると思う。部活動指導に熱心に取り組む教員の存在とともに、外部指導員導入等の動向も踏まえながら、部活動の充実についても検討してほしい。 |
| 53 | 校長人事について、例えば在職期間は5年を基本とするなど、スクール・ポリシーの実現に向けた計画を検討できるための措置が必要ではないか。 |
| 54 | 生徒指導や保護者対応など、教職員の業務負担の実態を踏まえながら、働き方改革の推進に向けて具体的な検討をしてほしい。 |
| 55 | ICT教育環境の設備については、ハード、ソフトとあわせて「ネットワーク」の整備も重要だと思う。個別最適な学びに適したソフトが入っているハードが、どこにいてもつながることで最大限効果が発揮されると思う。 |
| 56 | 学びを支える教育環境の充実について、1人1台端末に対応できるよう、学校施設内でのネットワーク環境を整えることが必要である。また、特色ある職業系専門学科では、府内全域や府外からの希望生徒も多いと聞いており、生徒数の確保や人材育成の観点からも、寮の整備は重要であると思う。 府立学校では、多様な生徒のニーズに対応した教育環境の充実が求められ、特別な支援が必要な生徒への職業教育の重要性は、必要な視点であると思う。 |
| 57 | アンケート調査結果の改善してほしいことなどに関して、トイレは個室内に便器と手洗い器があるものが便利であると思う。海外では、教室は一人の先生に一室与えられているように見受けられるので、そのようにならないか。また、移動教室では、机と椅子がセットになっているものが便利であると思う。中学校や高校で適したノートがないように思う。 校則はない方がよいと思う。制服はかばん程度でよいと思う。 部活動では、運動部の練習に選任のコーチを付け、そのコーチが部活動の指導をすることで、地域のニーズに対応できるのではないか。 |
| 58 | 学校を支える教育環境の充実について、生徒の多くが、学校施設・設備の改善を望んでいることが顕在化したとあるが、施設設備の課題は以前からあったはずであり、2割を超える生徒がトイレや教室の環境改善を望んでいることが、今回の調査で「顕在化」したのではないと思う。 |
| 59 | 教育環境の充実について、生徒にとっては日々の学校生活環境の改善という視点が必要であると思う。安心や安全、快適な環境を整えることで充実した学習環境をつくることができると思う。教職員が日々、生徒の快適な環境を創意工夫して改善する努力も必要であると思う。 |
| 60 | 高校教育改革に向けた予算案を示すことや、老朽化している府立高校の施設設備の改善を進めていくことが必要ではないか。 |
| 61 | 充実した施設設備で学校生活を送るために、予算を確保していく必要があるのではないか。 |
| 62 | 生徒数の減少に対して、府立高校の校舎等ではその規模のギリギリまで活用する必要があると思う。 |
| 63 | 小・中学生及びその保護者にとって、それぞれの地域で安心して学び、将来の夢をかなえることができる学校づくりが重要である。府内の南・北地域においては、ハード、ソフト両面からの違いがあり、これらを改善する視点等の方向性が必要ではないか。 |
| 64 | 1人1台端末導入に伴う購入支援制度の充実など、府立高校の魅力の向上については、府立高校とともに京都市立高校も公立高校としての役割を担っており、京都府民である京都市立高校の生徒にも一定程度は同等の制度やサービスが活用できるような制度設計としてほしい。 |
| 65 | これまで以上に、生徒たちの多様な学習ニーズに対応し、一人一人の希望進路を実現するような府立高校であってほしい。そのためには、民間と連携した広報発信も進めてほしい。 私立高校と比べて、ハンディや制約もあるかと思うが、魅力ある府立高校づくりを進めてほしい。 |
| 66 | 公立の幼稚園、小・中学校に通った上で、府立高校へ入学する場合、同じ公立学校に通っていたことでの連携やメリットがあれば、保護者は安心して心強く思う。 |
| 67 | 居住する市内にある府立高校について、私立高校との違いや高校の特徴などがあまり分からない。どのように府立高校の情報を得るのか、公立のメリットや魅力などが保護者や子どもたちにも分かりやすくしてほしい。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|----|---|
| 68 | <p>発信力の強化について、生徒だけでなく教職員間の交流も必要である。また、現在の子どもたちは、新聞やテレビよりもSNS、YouTubeへの関心が高いため、発信手段の工夫も必要である。</p> |
| 69 | <p>高校を選ぶ上で参考にするのは、口コミ、通学の容易性、偏差値だが、本当に生徒にあった高校選びが出来ているのかと思う。高校の特色はパンフレット等で確認できるが、施設や部活の紹介、学校行事といった内容ばかりで代わり映えない。これに対して、高校の特色などを数値化し、受検生の特長や希望を多角的に聞き取り、高校の情報との相性を判断することができないか。それを中学校1、2年生段階から実施することで、生徒自身に合った高校を保護者とともに確認し、有益な情報をキャッチアップできると思う。早い段階から自分にあった高校選びができるとともに、高校が求める生徒を意識することが可能となり、中学校の進路指導にも役立つと思う。</p> <p>漠然と偏差値で決める高校選びから脱却しないと、生徒の専門性ややりがい、潜在的な能力の開花に繋がらないと思う。今後、不登校の生徒が増えることも危惧しており、多様性の時代における個々の特長に応じた環境が整った高校選びが重要と考える。</p> |
| 70 | <p>効果的な情報発信について、私立高校では春と秋の2回延べ3日間の合同説明会を実施しているが、公立高校は春の2日間の説明会のみとなっている。感染症対策を踏まえ引き続き入場制限などの措置の継続も予測される中、合同説明会について、中学校の主体的な進路選択を保障するため、開催日数増加の検討とともに、各高校において計画的な準備や効率的な運営ができるよう、日程や方針について早期に示してほしい。</p> |
| 71 | <p>中学生への情報提供の重要性に着目した効果的な情報発信について、学校紹介動画の設置や、直近の公立高校合同説明会において、感染症対策との両立のため、事前予約制など様々な工夫のもと実施できたことは感謝する。一方で、公立高校合同説明会については、従前と比較すると参加者数や参加学年を制限することで、幅広い生徒に各校の魅力を広く周知することが難しい状況となっており、予算確保などの課題もあるかと思うが、適切な開催時期や日数等について、校長会と協議の上、中学生の高校進学について考える機会の充実について検討してほしい。</p> <p>合わせて、検討にあたっては、負担軽減や効率的な運営に向けて各校が計画的な生徒募集ができるよう、日程や実施の方針等について、早期に示してほしい。</p> |
| 72 | <p>中学生への情報提供の重要性に着目した効果的な情報発信について、直近の公立高校合同説明会でも、感染症対策との両立のため、学年を3年生のみとする制限や事前予約制など、様々な工夫のもと実施されたことに感謝する。一方で、従前と比べると参加者数や参加学年を制限せざるを得ないため、ぜひ秋季の追加開催や開催日数の増加など、より多くの中学生に高校進学について考えさせる機会の充実について、予算や実施側の負担等の課題もあると思うが、検討してほしい。</p> |
| 73 | <p>中学生の主体的な進路選択に向けた効果的な情報発信について、直近の公立高校合同説明会でも、感染症対策として、学年を3年生のみとする制限や事前予約制など様々な工夫のもと実施されていると思う。コロナ禍前と比較すると対象学年や人数を制限せざるを得ないため、より多くの中学生が参加できるよう、開催日数の増加など機会の充実について、予算や実施側の負担等の課題もあると思うが、検討してほしい。</p> |
| 74 | <p>中学生や保護者は、府立高校卒業後の進路先を重要視しており、府立高校に進学することで、どのような進路実現ができるのかを示す必要があるのではないかと。</p> |
| 75 | <p>デジタル化によって全てが解決するわけではなく、コミュニケーション能力や非認知能力の育成では、もっと実体験に基づく学びが必要であると思う。</p> |
| 76 | <p>私立高校では、授業料などの負担も少なくなったことや、学校の建物やグラウンド等も整っていると聞く。私立高校では一定の費用を負担する分、整備された校舎で学校生活を送ることができ、大学への進学も容易であるように思う。</p> <p>公立高校では、校舎等が古い印象であり、建物やグラウンド等の整備は必要だと思う。その高校にしかない特徴的な校舎等があることも、子どもたちが府立高校への興味をもつことにつながると思う。</p> <p>私立高校のように大学進学への仕組みを充実させることは、生徒や保護者にとっては大きな魅力である。府立高校が今まで以上に魅力的な学校になるように進めてほしい。</p> |
| 77 | <p>中学校は進路指導をする立場として、府立高校の改革には大きな期待を持っている。中学生が魅力を感じ、目標とする高等学校の改革に向けた取組に感謝する。</p> <p>府立高校における魅力的な学びの充実については、的確な現状認識の上を目指すべき方向が示されていると思う。全てにおいて、実際に具体化することには課題等もあると思うが、実現に向けて取り組んでほしいと思う。</p> <p>魅力ある府立高校づくりに向けた教育制度等の改革についても、その方向性を支持する。</p> |
| 78 | <p>新しい時代に応じた探究的な学びや学習スタイルの構築にあたっては、ICTを活用する目的として、生徒が主体的に考え、学び、他者と協力して課題解決を考える等の観点を踏まえることで、その方向性がより明確になるのではないかと。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|----|--|
| 79 | <p>魅力ある府立高校づくり全体について、スクール・ミッションは設置者である教育委員会が再定義すると思うが、「学校像」は各学校の生徒や保護者、教職員と地域が長い間少しずつ作り上げていくようなものではないか。予測困難な時代に対応するために、基礎学力、学び方を身につけさせることが重要であると思う。</p> <p>「1人1台端末」の導入は時代の流れとして当然かもしれないが、保護者負担ではなく、生徒が持っているスマホを有効に使うことや、予算措置の検討も必要ではないか。ICT化を進める中で、単にアプリや動画の利用にとどまってしまうかも心配である。教職員が有効にタブレットを使いこなせるように、各学校への専門家の配置やサポート体制づくりも必要であると思う。</p> <p>スケールメリットを活かすことは、豊かな学びを追求するためにこそ実施してほしい。</p> <p>グローバルな視点は、これからの全ての高校生に必要な視点である。SDGsの課題など、教科横断的な学習、探究的な学びに直結するものであり、各学校での取組を集約するなど、積極的に推進する必要があると思う。</p> <p>教員の資質向上については、自主的な研修制度や民間研究会への参加などの取組も考えられる。</p> |
| 80 | <p>高校の教育には部活動は欠かせないものとする。各高校では様々な部活動が展開されており、多くの高校生が文武両道を叶えられていると思う。</p> <p>部活動において、教員がそれぞれの生徒にきめ細やかに技術指導を行うには、一定の時間も必要となるため、教員への手当等を含めて部活動の充実を図ってほしい。</p> |
| 81 | <p>企業連携やグローバルな取組に関しては賛成である。</p> |
| 82 | <p>府立高校に在籍する高校生が主体的に参加できる、大学教員による計画的な特別講義のような仕組みは、様々な高校に通う高校生同士が共時的に刺激を与え合うとともに、実のある高大接続となって通時的に成長する機会となることから、府立高校としてのスケールメリットを活かした魅力的な取組となると思う。府立高校生を対象とした海外留学プログラムの実践なども、府立高校生ならではの取組としてより充実させてほしい。</p> |
| 83 | <p>魅力ある府立高校づくりに向けて、ICTは効果的に使えば成果が上がると思うが、万能のツールではないと思う。</p> |
| 84 | <p>ICTの活用による教育が、全ての学習上の困難を解決するわけではないと思う。</p> |
| 85 | <p>府立高校における魅力的な学びの充実で示された方向性は、全ての公立高校において目指していくのか。また、大学進学に特化した学校はグローバル人材育成、地域を支える学校は産業教育に取り組み、地域貢献できる人材を育成するといった社会的役割などに分けられるのか。スクール・ミッションは府教育委員会が再定義していくのか。その際には、各校の歴史なども踏まえる必要もあると思う。府立高校内の留学では、例えば市立高校にも留学できるのか。</p> |
| 86 | <p>課程間の連携、科目等履修制度の構築、府立高校内留学、1人1台端末導入に伴う購入支援制度の充実、普通科と専門学科の併設等を活かした魅力づくりなどについて、市立高校は、府立高校とともに公立高校入学者選抜を共同して実施するなど、公立高校の役割を担っており、公立高校として一定程度は同等の制度やサービスが利活用できるような制度設計としてほしい。</p> |
| 87 | <p>府立高校での課程間の連携による教科・科目等履修制度の構築や、府立高校内留学仕組みづくり、1人1台端末導入に伴う購入支援制度の充実などによる府立高校の魅力の向上について、府立高校とともに京都市立高校も公立高校として役割を担っていることから、市立高校生にも一定程度は同等の制度やサービスが利活用されるような制度設計としてほしい。</p> |
| 88 | <p>府立高校での課程間の連携による教科・科目等履修制度の構築、府立高校内留学の仕組みづくりや1人1台端末導入に伴う購入支援制度の充実など、府立高校の魅力の向上については、中学生は京都市立高校も含めて公立高校として受検しており、市立高校も同じ公立高校として一定程度は同等の制度やサービスが利活用できるような制度設計となるようにしてほしい。</p> |
| 89 | <p>府立高校について、小・中・高の一貫校があってもよいと思う。6・3・3年に割ることでそれぞれの校種での重なりがあり、学習内容を深めにくい部分があると思う。時間的なゆとりの中で柔軟なカリキュラムが立てられるようなシステムがあると、学習者と指導者の双方のメリットがあると思う。</p> |
| 90 | <p>高校の説明会では、公立高校の売りとして、多くの高校が大学進学実績を強調される。中学生からすれば、高校生活は受験勉強のためかと思ってしまう。それで私立高校を選択しようとなり、公立離れが生まれてしまっているのではないかと。自分の成績と通学距離で学校を選択しているのが現実である。</p> <p>受験のためでなく、豊かな人生を送るための高等教育としての教科学習であることを保護者も子どもも望んでいる。企業のための人材教育ではなく、個性を活かした豊かな人間教育をしてほしい。個に応じた多様な進路の選択ができるよう、基礎基本をはぐくむ高等教育であってほしい。高校の中で、社会と関わりのある行事に取り組み、自分の責任で取組に参加して、視野を広げていけるような教育活動が重要ではないか。</p> <p>地域性のある高校なら、地域ではぐくんできた人間関係をもとにして、高校生活・行事・部活動が継続できるメリットがあると思う。高校選択が地域密着型となるよう、募集人数の一定数を地域枠にすることも検討してほしい。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

2 学科の特色化・魅力化の推進

- (1) 魅力のある新しい普通教育の推進
(2) 質の高い職業教育と総合学科における学びの充実

| | |
|----|--|
| 91 | 大学への進学率が高いということから、大学の学部・学科のように専門学科を設けることは必要であると思う。普通科のみで2年次から理数系と人文系に分かれる学校が多いと思うが、例えば人文でも「英語」「国語」などに分けられるのではないか。 |
| 92 | 普通教育における魅力の向上、普通科・普通科系専門学科の在り方の検討において、学科やコース名称の整理について検討することが記載されているが、名称の整理にあたっては、入学者選抜など公立高校として連携し運営している京都市立高校や、進路選択を行う京都市立中学校への影響も考えられるため、京都市教育委員会への事前協議を踏まえて検討してほしい。 |
| 93 | 普通教育における魅力の向上、普通科、普通科系専門学科の在り方の検討において、学科やコースの整理、学科の在り方などの検討に関しては、入学者選抜など公立高校として連携して運営している市立高校にも影響を及ぼすものであり、京都市教育委員会との事前協議を行い、丁寧な検討を行ってほしい。 |
| 94 | 質の高い職業教育と総合学科における学びの充実について、特に地元公立大学との連携を進めてほしい。総合学科は教育内容が理解されにくいので、総合学科のメリットを活かしながら学科名を工夫する必要があると思う。 企業との連携については、府立高校単独でなく、高大連携や産学連携の形を構築していく必要がある。 |
| 95 | 公立としての府立高校にしかできないことは「専門学科教育」であると思う。専門学科は、学習の先に見える向こう側を想定して学びを進めていく、本物のプロフェッショナルから学ぶことができる、常に社会を意識した学びを導入できるなど、魅力が多くあると思う。 |
| 96 | 環境問題への関心の高まりや、グローバル化する社会、情報テクノロジーの著しい進歩を考えると、他府県・政令市で積極的に名称変更等をするなど様々な魅力向上を図っている工業系高等学校のように、本府にも魅力向上を図る科学技術系高等学校が必要ではないか。 |
| 97 | 職業学科における生徒募集定員未充足を解消するために、部活動の活性化を図ることも必要ではないか。 |
| 98 | 新しい時代のキャリア教育として、「将来必要となる知識を、それがわからないうちに予め多めに蓄えておく」タイプから、「将来必要となる知識をより早い段階で見極めさせる取組を一層増やし、必要な知識に絞り込んでより深く学ぶ」タイプの教育へと変革していくことが考えられる。これにより日々の高校での学習に、より生き生きと取り組めるようになるのではないか。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

3 多様なニーズに対応した柔軟な教育システムの充実

- (1) 定時制・通信性教育の充実
- (2) 全日制課程における柔軟な教育システムの構築
- (3) 特別支援教育の充実

| | |
|-----|---|
| 99 | 不登校の生徒が増加する中、定時制・通信制の役割が見直される必要性を感じる。その内容の周知や充実に注力してほしい。 |
| 100 | 不登校の生徒や配慮を要する生徒が増えており、通級による指導の充実は今後も必須だと思う。清明高校や清新高校のような学校が中丹地域においても必要であると思う。 |
| 101 | 中学校では、不登校や特別支援教育の対象となる児童生徒が増加し、通級による指導を受ける児童生徒も年々増加している。中学校で通級指導が実施されていなかった平成18年以前と比べると、児童生徒のニーズに応じて、学校内で落ち着いて授業に取り組めたり、学校生活を送ることができたりしている現状がある。 高等学校でも、発達障害等により学習内容が理解できなかつたり、対人関係でうまく対応できなかつたりすることなどの課題があると思う。現在、清明高校と清新高校の2校だけで通級による指導が実施されているが、府内全域への充実を図ることが必要であると思う。それによって、中学校からの必要な支援を府立高校でも途切れることなく実施できることになり、高等学校での課題も少しずつ改善されるのではないかと。 |
| 102 | 定時制・通信制教育の充実について、新しい学習スタイルの通信制課程の設置やハイブリッド型の通信制課程の方向性は大いに共感できる。 |
| 103 | 定時制・通信制教育の充実について、フレックス学園構想や昼間定時制を望む生徒は多様であり、その多様な生徒のニーズに応えるシステムや教育内容の多様性も必要である。そうした高校では、普通科だけでなく、選択によって職業系専門学科等の学びができる単位制総合学科の設置も有効ではないかと。 |
| 104 | 定通併修制の活用に向けた環境整備を期待する。 他府県では、定通併修制を活用している定時制高校が少なくなく、両課程を併設している学校も多い。現在、本府には通信制高校は2校しかなく、私立通信制高校の希望者増に見られる中学生のニーズを、十分取り込め切れではないと思う。 例えば、ICTを活用したオンライン授業の充実とともに、小規模のサテライト校を各地に設置し、対面によるレポート作成等、学習や単位修得に向けた支援を強化することも考えられる。 定時制課程に在籍しながら、一部科目を通信制により単位修得することで、出席時間数不足等で進路変更せざるを得ない生徒を継続的に支援することが可能となる。 併せて、通信制課程への転入学の機会を、年3回以上設定するなど、切れ目のない学習(在籍)に向け、一層柔軟な対応も必要ではないかと。 |
| 105 | 小・中学校時代に不登校経験のある生徒に対しては、リモート授業を認めるということではできないか。小・中学校に不登校の経験があれば、学校に馴染めず、高校においても同様の傾向が考えられる。例えば「リモート学級」「リモート課程」のようなクラスや対応方法によって卒業することができる生徒たちも多いのではないかと考える。定時制・通信制だけでは不十分なように感じる。 |
| 106 | 個別最適な学びの充実について、「定時制課程(昼間・夜間)に求められているニーズを検証し、個別最適な学びの機会を保障する」、「『京都フレックス学園構想』に基づく柔軟な教育システムや社会的自立に向けた支援をさらに充実させる」と記載されているが、通学圏ごとの中学生のニーズを踏まえて、不登校傾向等の生徒の学び直しのニーズに対応した学校の新設を進めてほしい。 |
| 107 | 定時制課程(昼間・夜間)に求められるニーズを検証し、個別最適な学びの機会を保障すること、京都フレックス学園構想に基づく柔軟な教育システムや社会的自立に向けた支援をさらに充実させることについて、大変心強く感じる。現在、清明高校や京都奏和高校への希望は依然として高い状況にあり、通学圏ごとの中学生のニーズを踏まえて、不登校傾向等の生徒の学び直しに対応した学校の新設も含めて、検討してほしい。 また、通信制課程への進学希望の高まりを踏まえ、新しい学習スタイルの通信制課程の充実など、多様な学びのニーズへの対応に取り組んでほしい。 |
| 108 | 定時制課程(昼間・夜間)に求められるニーズを検証し、個別最適な学びの機会を保障すること、京都フレックス学園構想に基づく柔軟な教育システムや社会的自立に向けた支援をさらに充実させることとあわせ、通信制課程への進学希望の高まりを踏まえ、新しい学習スタイルの通信制課程の設置など、様々なニーズに積極的に取り組まれることは、大変心強く感じる。不登校傾向等の生徒の学び直しに対応した学校の新設も含めた検討や通信制課程の充実など、引き続き多様なニーズへの対応に取り組んでほしい。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|-----|---|
| 109 | 通信制課程では、様々な背景や事情がありながら、学ぶ意欲を持って頑張っている生徒が多いと思う。通信制課程を志望する生徒の実態とニーズからは、タブレット端末などによる双方向での教員や他の生徒との授業は難しいのではないかと。自分のペースで学び、紙のレポート上での教員との交流によって支えられている生徒も少なくないと思う。端末の導入によって、時代の変化に対応しているようだが、紙のレポート提出を通した人間らしい心のやりとりなども重要であると思う。 |
| 110 | フレックス学園構想に基づく柔軟な教育システムでの成果等を、全日制課程にも共有していくべきである。 |
| 111 | 全日制課程における柔軟な教育システムの構築について、留学による単位認定や学年・大学への飛び級など、柔軟なシステムが求められるのではないかと。普通科と専門学科の併設校では、学科間の異動ができるような柔軟なカリキュラムも必要ではないかと。 |
| 112 | 全日制課程における柔軟な教育システムの構築として、卒業までに修得させる単位数の見直し等の検討が示されているが、基礎的・基本的な学力の定着に向けては、少人数での補習を行うための条件整備をすべきではないかと。 学校における働き方改革の推進として、抜本的な業務削減を行いつつ、生徒たちにとって必要な支援をするための教育環境を確保してほしい。 |
| 113 | 地元地域からの求人ニーズの状況から、工業系の学びが就職に強いことは明らかであると思う。府立高校の強みを生かした制度構築(普通科校と工業科校との学校間交流、単位互換制度、短期留学など)は、普通科生徒の就職状況の改善や工業科生徒の進学実績向上につながる可能性があると思う。 |
| 114 | 通級による指導の充実を図るためには、専門知識を持った教員の支援が必要であると思う。そのため、各地域の府立特別支援学校の地域支援センターの教員による巡回指導や、中学校の通級指導教室との連携なども必要であると思う。また、中学校の通級指導教室での指導経験がある教員等の活用も、府立高校での通級による指導の充実につながるのではないかと。 |
| 115 | 特別支援学校高等部の府立高校への設置、障害の程度に応じた高校教育と府立特別支援教育との複合的な教育システム、特別支援学級の設置、他校通級を目指すには、各校種で十分な専門性のある教職員の配置や研修を進めることが重要である。 |
| 116 | 府立高校への特別支援学校教員の配置について、高校と特別支援学校では教員の専門性が大きく異なると思う。特別支援学校教員に頼る特別支援教育の充実ではなく、発達や障害の理解、合理的配慮などの教員研修の在り方や校内での意識改革、コーディネーターの指名など、高校における特別支援教育の専門性の向上を図る必要がある。 |
| 117 | 特別支援教育の充実とは、一人一人の発達や障害の状況を理解し、必要とする支援を行うことが最大のポイントであると思う。特別支援学校と府立学校の併設といったかたちの検討において、生徒たちの実態や現状の課題をまず整理する必要があると思う。府立特別支援学校の教職員の専門性を高めることが重要であり、府立高校でも特別な支援が必要な生徒の増加に対して、通級による指導など、専門的に対応するための専門性を高めることが必要であると思う。府立学校全体で教職員の専門性を高める研修等の充実を図ることが、特別支援教育の充実にも最も必要なことであると思う。教職員の人事異動や配置に関わることも重要な視点ではないかと思う。 |
| 118 | 府立高校の持続可能な在り方を考えると、特別支援学校の在り方が欠かせない検討項目と考える。特別支援学校では授業料を徴収していないため、高校ではなく特別支援学校に行く生徒が増えると財源が減る。特別支援学校への入学審査基準を明確に定め、さらに発達段階に合わせて授業料を徴収する対策が必要である。 また、生徒の多様化への充実を図り、高校への受け入れ態勢も整えることが重要である。 |
| 119 | 特別支援教育の充実について、小・中学校での通級による指導に馴染めず、フレックス学園構想による高校や定時制の高校を希望する生徒が増えているのではないかと。生徒や保護者のニーズを踏まえた、各地域におけるフレックス学園構想による高校等や新たな通級による指導のシステムが必要ではないかと。 |
| 120 | 特別支援教育の充実について、京都府における特別支援教育推進に向けた施策の課題等を踏まえた上で、義務教育段階から高等学校段階を俯瞰する観点でのインクルーシブ教育システムの構築に向けた方向性等が整理され、具体策が整備されていくべきである。それによって、特別な支援を必要とする子どもが真に成長できる学びの場となると思う。 |
| 121 | 高校における特別支援教育の充実について、障害の実態や程度に応じた高校教育と特別支援教育との複合的な教育システムに関しては、具体的なイメージが想起できない。支援を必要とする生徒に対して、合理的配慮の提供等が行われ、生徒にとっての望ましい学びの環境につながっている事例もあると思うが、今回示された方向性はどのようなイメージであるのか。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|-----|--|
| 122 | <p>通級による指導の充実について、府立特別支援学校(地域支援センター)教員による巡回指導では、評価や評定を伴うため、指導者にはそのための専門性が求められると思う。また、これまで府立特別支援学校の地域支援センターが実施している巡回教育相談とは異なる内容でもあり、そうした観点での整理も必要であるとする。</p> |
| 123 | <p>特別支援教育の充実について、特別支援学校では、小学部・中学部・高等部と必要な支援を途切れることなく行っていると思うが、高等部のみを府立高校と併設することでのデメリットはないのか。 インクルーシブ教育について、府内の具体例では京都八幡高校南キャンパスと八幡支援学校との連携が考えられるが、その実践状況や課題等について、どのような検討がされているのか。 府立特別支援学校では、児童生徒数の増加による過密状態や教室不足とともに、教員の人材不足等の課題がある。府立高校に高等部を併設することで、教室不足は緩和されると思うが、指導者の確保が課題であり、体制の整備や必要な研修の実施等について、どのような見通しを持っているのか。 高校での単位認定や成績において、複合的な教育システムや特別支援学級を設置する際には、生徒・保護者への不公平感が生じないようにしないといけない。</p> |
| 124 | <p>府立高校に特別支援学校高等部を併置することに賛成である。 高校と府立支援学校高等部では、単位修得において違いがあるが、学力や能力、障害の程度において、高校入学後に学習状況を見ながら、高校と特別支援学校との複合的な教育システムを提供することにより、同じ学校(校舎)に通いながら、進路変更することなく、社会的自立に向けた学習の継続が可能となると思う。</p> |
| 125 | <p>「特別支援学校高等部を府立高校に併設」、「府立高校と府立特別支援学校との連携」、通級による指導については「特別支援学校教員による巡回指導方式」など、特別支援学校と連携した教育の充実が記載されているが、本来の設置義務が都道府県にあることを踏まえ、京都市内府立高校の特別支援学校高等部設置に当たっては、京都市立中学校の生徒を受け入れるなど京都市内においても、他地域の取扱いと差が生じないように、必要な対応や支援を行うべきではないか。</p> |
| 126 | <p>特別支援学校高等部と連携したインクルーシブ教育の環境の整備について、特別支援学校高等部を府立高校に併設するという安易な考えは反対である。 特別支援学校は小学部から高等部と12年間の系統性を持って学習を進めており、高等部を府立高校に併設すると、それまでの積み上げが十分に生かせないと思う。特別支援学校高等部が府立高校に併設されることで、障害実態に合った指導をどのようにしていくのか、具体的な検討が必要であると思う。 昨年9月に特別支援学校の設置基準が策定され、教室不足に関して、計画の策定が各都道府県教育委員会に求められているが、京都府はまだ策定されていなかったと思う。府立高校の空き教室を使用することについては他府県でも行われているが、特別支援学校の高等部生徒にとって安心して過ごせる場ではないと思う。設置基準による特別支援学校の整備を先行すべきではないか。</p> |
| 127 | <p>特別な支援を要する生徒の学習支援について、対象となる児童生徒は一定数存在するが、特別支援学校や特別支援学級等に在籍していない場合もあると思う。 多様な子どもたち一人一人を大切に、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばす教育や、公教育の場としての教育の機会の保障とともに、選択肢の多様性を確保することを第一義的に捉えることについて共感する。高校生も含む京都府の全ての子どもたちが、自分らしい発達ができる教育条件整備をしてほしい。</p> |
| 128 | <p>特別支援学校高等部と連携したインクルーシブ教育の環境の整備について、単に特別支援学校高等部を府立高校に併設することでは、障害の実態等に応じた指導ができるとは思えないので、特別支援学校高等部と府立高校の安易な併設については反対である。 特別支援学校では、12年間の系統性を重視して、教育課程や教科領域等の指導内容、卒業後の生活を見通した指導を行っている。高校に入学する特別な支援が必要な生徒たちの学習保障や進路保障は必要であり、高校教育の枠組みの中で、誰一人として取り残さない高校制度を柔軟に議論していく必要があると思う。 また、特別支援学校高等部に進学する生徒の中には集団に対する不安感などがある生徒もいるので、特別支援学校高等部の生徒と高校生との協働学習を教育課程に位置づけ、重視するには、集団の質と量の検討が必要である。協働学習は教育課程の中の重要なファクターであるが、インクルーシブ教育のために重点化するのであれば、わらいなどは慎重に検討すべきであると思う。府立特別支援学校高等部と府立高校の間では各校工夫を凝らした交流及び協働学習が進められており、その取組の成果等を確かめていくことが必要ではないか。 府立特別支援学校の在籍児童生徒数増による施設設備の整備を、府立高校との併設で解消させるのではなく、特別支援学校設置基準に示されるような施設設備を府立特別支援学校すべてに用意できるような計画を立てるべきではないか。特別支援学校の教室不足の解消には、12年間の系統性、学びの場としての価値、特別支援学校設置基準を踏まえ、特別支援学校の改築や新設が必要だと思う。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|-----|---|
| 129 | <p>特別支援学校高等部と府立高校の併設について、高校生には障害の理解につながるかもしれないが、高等部の生徒への影響がないか心配である。他府県の高校併設の分教室などでは体育館や特別教室の使用などにおける課題もあると思う。特別支援学級の設置の検討や通級による指導の充実は是非推進してほしい。高校卒業後の進路も見据えて、福祉との連携ができる体制を構築してほしい。</p> |
| 130 | <p>生徒の多様化に対応した魅力ある府立高校づくりについて、中学時代に不登校だった生徒の中には、ゆったりした学校生活を送る学習環境や人間関係づくり、学校生活に不安を感じる生徒もいるため、ICTを活用した学習システムは必要である。 不登校等の生徒に対しては、全日制・定時制・通信制の枠組みではない方法が必要であり、特別な教育課程の編成が求められるのではないかと。 全日制、定時制、通信制を問わず、特別な支援が必要な生徒が社会的自立を目指す方法を検討していくことが重要であると思う。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

Ⅲ 魅力ある府立高校づくりに向けた教育制度等の改革

- 1 地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方の検討
- 2 社会情勢等の変化に対応した入学者選抜の在り方の検討

| | |
|-----|---|
| 131 | 定時制・通信制課程の再編や再配置については、現状認識から鑑みて、生徒の学習ニーズ等にしっかりと応えるために、柔軟な教育システムの充実とICTを活用した新たな学びの推進を踏まえて、検討されるべきだと思う。 |
| 132 | 地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方の検討については、近年における丹後地域や口丹地域での検討内容や、京都フレックス学園構想による清新高校の開校など、再編整備の成果や課題も踏まえるべきではないか。 |
| 133 | 少子化等によって地域内の子どもたちが非常に少なくなり、小・中学校では少人数の人間関係の中で学校生活を過ごせる良さはあるが、高校では集団の中で多様な考え方に触れることも大切であると思う。一定の生徒数で、新しい人間関係の中で刺激を受けながら勉強や部活動等ができることは有意義であると思う。将来を見据えると、地域に高校があることは大切だが、丹後地域の学舎制のような、一定の生徒数を維持し、合同での教育活動ができるといった検討も必要である。 |
| 134 | 地域の実情を踏まえた府立高校の在り方の検討については、地理的・物理的・歴史的な状況を踏まえつつ、将来を見据えて、全国的にも例のないような大胆な改革をお願いしたい。 特色ある教育内容や部活動に特化して、全国募集を積極的に進めるべきである。そのためには寮の整備は不可欠である。また、寮への時代のニーズを感じるとともに、環境や活用方法(地域のコミュニティー等)により、寮そのものが大きな特色となり得るのではないか。 |
| 135 | 魅力ある府立高校づくりに向けた教育制度等の改革について、「府立高校の再編については、生徒数の減少のみに着目した一律的・機械的な基準は設けないことを前提としつつ、地域の実情等を考慮しながら検討する。」という方向性は、妥当であると思う。 平成16年7月「府立高校改革推進計画(Ⅱ)」において、学年制の全日制高校では、1学年8学級程度が適正な規模とされ、その考え方のもとに山城地域での高校再編が進められた。再編計画を現時点で振り返ると妥当だったとは思えず、その反省を踏まえて今後に生かしていくべきではないか。 地域の実情を充分考慮しなかったことや、少子化が進む中の高校再編において、一定規模という基準を設けることは、馴染まないものだったと思う。 生徒たちにとって、近くて通いやすい高校があることが大切であり、選択肢を確保するためにも、今の高校数をできるだけ維持することを旨とするべきではないか。 |
| 136 | 丹後地域に学舎制を導入し、将来の地域を支える人材の育成に向けて可能性を残してもらえたことはありがたく感じており、地元関係者としても応援していきたいと思う。 しかし、今後の丹後地域の生徒数の推移では大変厳しい現実が待ち受けていると思う。 地元市町も対策を講じているが、京都府として人口増加を実現する手立てを打ち出してほしい。コロナ禍を通して、都市集中の緩和が図れる施策を期待する。 丹後地域に少人数でも学べる高等学校があるように、今後も生徒数の減少だけに着目した基準は持つべきでないと思う。 |
| 137 | 魅力ある府立高校づくりに向けた再編整備の検討について、「交通の利便性が高く、選択できる高校の多い地域については、一定規模の教育環境の確保や、学科等の選択肢をバランス良く配置するという視点から再編も検討する」とされているが、京都府北部の地域の実情に応じた検討であるならば、その旨を記載してほしい。 京都市・乙訓通学圏にも関係する内容であるならば、再編にあたっては、中学生の進路保障の観点からも検討するとともに、京都市立高校も公立高校の役割を担ってきていることから、公立高校設置者として、京都市への意見聴取を行ってほしい。 また、「定時制・通信制課程の再編や再配置を検討」と記載されているが、清明高校や京都奏和高校の志望状況を踏まえ、学び直しのニーズに対応する高等学校の新設を検討してほしい。 |
| 138 | 魅力ある学びを活性化するための環境整備について、地域産業に関わる職業学科や部活動など、府内他地域や全国から積極的に生徒を募集する制度について記載されているが、まずは、府内中学生の進路保障や府内高校生の活躍の場の確保が前提条件であり、地域振興とともに、その旨を明記してほしい。 |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|-----|---|
| 139 | <p>魅力ある府立高校づくりに向けた再編整備の検討について、生徒数の減少のみに着目した一律的・機械的な基準は設けないことを前提としつつ、地域の実情等を考慮しながら検討するとされており、検討にあたっては、市立中学校を含め、関係者との事前協議と丁寧な検討をしてほしい。</p> <p>あわせて、各高校での募集人数も、少子化のみならず、進路選択の多様性の確保や進路保障の観点を踏まえ、引き続き適切な設定をしてほしい。</p> |
| 140 | <p>定時制高校について、小・中学校で不登校を経験した生徒が定時制高校に入学するケースが増えており、定時制高校が果たす役割は大きいと思う。例えば、定時制高校で生活リズムが整えられた生徒たちは、高校卒業後も社会で活躍している。アルバイト経験を通して自分自身の能力を発揮し、学校生活にも積極的に関わってくるため、「主体的な」学びにつながっていると思う。</p> <p>いじめなど人間関係で不登校を経験し、定時制高校で心機一転頑張るという目標を持って入学する生徒もいる。定時制高校では、異世代で学ぶ環境などを通して、学校生活に順応していく生徒もいると思う。また、全日制高校を中途退学して定時制高校に入学する生徒もいる。生徒たちは社会人としての関係の中で学習面でもプラスに働いていくこともあると思う。</p> <p>京都市内の定時制高校の入学者数は激減しており、維持運営の関係で統廃合が検討されるのは仕方ないと思うが、存続の必要性はあると思う。通学の観点から、桃山高校定時制は山城地域からの通学先として存続すべきと思う。朱雀高校は全課程があることなどから、今後の在り方を検討すべきである。普通科志向の中、桃山高校定時制の商業科については、役割や意義を振り返った上で、今後の在り方を検討すべきである。ICT化が加速する社会を担う人材育成を主軸にした在り方の検討が望まれる。</p> |
| 141 | <p>地域の活性化、卒業生が地元に残る割合、卒業予定者への求人数、近隣府県と比べて京都府は職業系学科が少ないことなどの要素を考慮すれば、中学校卒業者の減少に応じて、職業学科募集定員を減らすことも検討すべきではないか。</p> |
| 142 | <p>これまでの府立学校の再編整備においては、基本的に生まれた場所で学びの格差を設けないというような考え方があったと思う。そのような視点を引き続き持ってほしい。</p> |
| 143 | <p>府立高校の再編について、生徒数の減少のみに着目した一律的・機械的な基準は設けないことを前提とする方向性は素晴らしいと思う。一方で、交通の利便性が高く、選択できる高校の多い地域においては、地域の実情等は考慮されないのか。</p> |
| 144 | <p>府立高校生のアンケート結果を見ると、生徒たちの思いは家から近くて通いやすい高校に入りたいということが明らかになったと思う。家から無理なく通える高校に入って、3年間友達と学び会いながら自分の将来の選択肢を見きわめたい、という生徒の願いをかなえることが、公立高校の最も大切な役割だと思う。選択ができる高校があるから不人気な高校は統廃合するという方向での「再編」には反対である。</p> |
| 145 | <p>近年、公立高校の定員未充足が府北部地域では拡大傾向にあり、中学校に対して、高校側から志願者募集の依頼をされる。公立中学校としては、公立高校は魅力ある学校なので中期選抜まで目指してほしいが、最終的には親子で進路を決定すべきものであると思う。</p> |
| 146 | <p>私立高校の入学者選抜を経て、公立高校の前期選抜は受検するものの、早く進路を決定したいという思いから公立高校の中期選抜は受検せずに進路を決定する生徒や保護者が増えてきているといった傾向が、顕著に表れていると思う。</p> <p>これは前期選抜の浸透によるデメリットではないか。従来の推薦入試では一部の生徒しか受検できず、多くの生徒は中期選抜を目標としていたが、現在は、前期選抜がメインとなり、中期選抜は二次試験的な意味合いでとらえる生徒や保護者が増加していると思う。</p> <p>また、推薦入試と違って誰もが受検できる前期選抜で不合格になった場合、一部の生徒は、再度中期で同じ学校を受けるのは心理的プレッシャーが大きく、志望校を変更することにもつながっているように思う。特に、職業系専門学科では、前期選抜で70%を募集するため中期選抜の募集人員は少なくなり、顕著であると感じる。</p> <p>今後、入学者選抜制度の検討においては、中学校での教育課程を適切に実施し、中学校生活の最後までしっかりとした目標を持ち過ごせるよう、前期選抜を拡充するのではなく精選し、中期選抜を充実させることが望ましいと思う。</p> |
| 147 | <p>少子化によってクラス数が減ったのであれば、希望者全員が府立高校に入れればいいと思う。通学については、時間差通学などで近隣校による通学バスがあってもいいと思う。</p> <p>海外では秋入学の学校もあるが、必要ではないか。</p> |
| 148 | <p>高校改革と同時に入試制度も検討してほしい。</p> <p>私立高校のように、ネット出願を公立高校でも取り入れてほしい。また、府市協調を図り、公立高校の受検料の支払先を統一してほしい。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|-----|--|
| 149 | <p>本府教育の基本理念の「すべての子どもを愛情と信頼と期待とで包み込んでいくこと」、施策推進の視点の「多様な子どもたち一人一人を大切に、誰一人取り残すことなく、個性や能力を最大限伸ばす教育」に向けては、入試制度の変更が必要である。</p> <p>受検者の約半数が不合格になる前期選抜を継続すれば、すべての子どもを包み込んでいくことには近づけないのではないか。また、誰一人取り残さないためには、主体的に高校を選択するチャンスを残しつつ、近くて通いやすい高校に入学できる仕組みが必要である。</p> <p>地域創生の核として寄与する社会的役割を果たし続けるためにも、近隣中学校の受検者対象の地元枠を設けるなどの工夫が考えられる。生徒数の減少のみに着目して機械的に募集定員等を減らすことを避け、希望者全員を入学させることを目指すべきである。</p> <p>結果的に定員未充足の高校が増えていくことを受け入れることや、学級定員を40人から減らす方策も求められる。</p> |
| 150 | <p>小・中学生及びその保護者にとって、入学者選抜の在り方は大きな関心事である。その方法等によって志願状況にも影響があるため、入学者選抜制度の検討は重要な要素だと思う。</p> |
| 151 | <p>コロナ禍において、感染症拡大に配慮し、受検者の受検機会確保の方策として、追試の日程変更や追加の選抜を設けるなど、志願者の不安を和らげるための取組に感謝する。</p> <p>一方で、選抜日程が過密となり中期選抜の学力検査の直前に特例出願をしなければならないなど、中学校・高校の業務負担はもとより、受検生である中学生にとっても新たな負担が増加するという課題が生じている。入学者選抜の在り方を検討する上で、余裕のある日程となるよう制度見直しを考えてほしい。</p> |
| 152 | <p>現行の高校入試は、前期選抜と中期選抜で、多様な選抜方法による合否決定や学科によって異なる募集割合など、中学生や保護者には非常にわかりにくい。入学者選抜制度の検証・見直しに向けた検討を行う際、シンプルで誰でもわかりやすい制度に見直してほしい。</p> |
| 153 | <p>京都府は南北に縦長で地域の特性はあるものの、京都府全体で検討を進め、府内の中学生のためには、どの通学圏であっても公平に同じ入試制度で実施してほしい。</p> |
| 154 | <p>入学者選抜制度の検証について、現行制度は、単独選抜と複数回受検とすることで、志望校へのチャレンジと進路保障の両立を実現するものとして定着しており、また「あんしん修学支援制度」の充実などにより、私立高校が進路選択に入りやすくなるなど、中学生の進路実現に向けた環境が整ってきている。</p> <p>中学3年生の主体的な進路選択と進路保障、また学習期間の確保に向けたより良い制度とするために、細やかな分析と中学校など関係者の意見を十分に聴取しながら、通学圏や府南・北部など共通の課題を持つ地域ごとに検討を行うべきではないか。</p> |
| 155 | <p>入学者選抜制度の検証、見直しに向けた検討について、平成26年度の制度選抜から一定期間が経過し、定着が図られているところであり、現制度の良さや課題を十分に踏まえてより良い制度とするために、京都市教育委員会をはじめ必要な関係機関との協議の実施など、丁寧に検討を進めてほしい。</p> |
| 156 | <p>入学者選抜制度の検証、見直しに向けた検討について、現制度は志望校へのチャレンジと進路保障の両立に向けた制度として定着しているものと思う。一方、制度導入から一定期間が経過しており、状況変化を踏まえた検証・検討を実施されるのであれば、中学生の主体的な進路選択と進路保障、また中学校での学習期間の確保に向けたより良い制度となるよう、丁寧な分析とあわせて、中学校校長会や進路を担当する教職員等、関係者の意見を十分に聴取してほしい。</p> |
| 157 | <p>現在の入学者選抜は、私立高校の入試、合格発表の後に公立の前期選抜が行われている。また、前期選抜の合格発表までに1.5次入試を行っている私立もある。公立では、前期選抜で定員の100%を募集する専門学科等はあるものの、定員の多くを占める普通科は20～30%しか募集していない。</p> <p>中学生の「早く合格したい」「早く進路を決めたい」という意識や雰囲気の高まりに対して、公立の現状は合致していないと思われる。そこに支援制度による経済的負担の軽減が合わさり、このままではより私立希望者が増えるのではないか。日程の変更が困難であるなら、前期選抜の募集人数(割合)を大きく変更しなければいけないと考える。</p> |
| 158 | <p>アンケート結果をもとに、高校生の願いを集約すると、「特別な高校」ではなく、「普通の高校」を多くの中学生及び高校生が望んでいるということになるのではないかと。8年前の入試制度改革によって、結果的には公立離れと地理的条件の悪い高校での大きな定員割れを生み出したのではないかと。制度改革の目的や生徒のニーズについて、総括する必要があると思う。前期選抜は多くの中学生にとって入試の負担を増加させ、私学志向を促進させており、早く見直しをするべきであると思う。</p> |
| 159 | <p>各校において明確な志願者数の違いが生じるかもしれないが、入学者選抜に関しては単独選抜への移行も検討すべきではないか。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

| | |
|-----|---|
| 160 | <p>通学区域の拡大や、早く内定を決めたい生徒と中期選抜まで取り組む生徒の気持ちの差による中学校での集団指導の困難さなど、現行の入試制度での課題はあると思う。</p> <p>はやる気持ちで前期選抜を受検して不合格となり、中期選抜に向かわずに私立高校入学を決断する生徒も多い。行きたい学校・学科よりも行ける学校を選択する生徒が増えている傾向にあり、地元高校の普通科を結果的に諦めるケースもあると思う。</p> |
| 161 | <p>魅力ある府立高校づくりに向けた再編整備の検討や、入学者選抜制度の検証、見直しに向けた検討について、現状の丁寧な分析や関係者との協議などを経ながら、中学生の進路選択の多様性の確保、主体的な進路選択と進路保障など、より良い制度となるよう検討を進めてほしい。</p> |

パブリックコメント
(御意見の要旨)

Ⅳ 魅力ある府立高校づくりに向けた今後の進め方

| | |
|-----|---|
| 162 | <p>現状・課題認識及び魅力ある府立高校づくりについて、同感する。劇的に変化する社会にあっても、府立高校が、これまで蓄積してきた教育的な財産とスケールメリットを十分に活かして、公教育の場としての教育の機会を保障し、全ての生徒が今と未来を生き生きと学ぶことができる高校であれるよう、必要な理念や手段を示し、行動していくことは大切なことだと思う。</p> |
| 163 | <p>魅力ある府立高校づくりに向けた今後の進め方について、生徒たちを誰一人取り残すことなく、主体的、対話的に深く学ぶ教育課程を創るためには、各高校で深い探究に裏付けられた教育課程づくりに全教職員が参加しなければならないと思う。その成果としての教育課程の編成及び方針を全府立高校が1年後に示すことができるのか疑問である。</p> <p>第5回検討会議資料の「京都府立高校全日制普通科の変遷」を見ると、各校で第Ⅰ類に様々なコースを導入したが、長続きしなかったものも多い。類・類型制度の中で、教育課程を自主的、主体的に編成する力量を、多くの府立高校が失っていったことは否めないのではないか。</p> <p>各通学圏に1校程度、普通科系専門学科が置かれて大学受験に配慮しつつ、類・類型に比べて制約の少ない教育課程づくりが行われた一方で、多くの府立高校では、類・類型の名残のあるコースが現在も設置されている。</p> <p>全教職員が話し合う時間的なゆとりや、各教科担当者が時間をかけて教育課程を研究していくなどの環境整備から行わなければ、高いレベルの教育課程づくりにつながらないと思う。</p> |
| 164 | <p>教育制度等の改革について別途会議を立ち上げて検討する場合には、各分野から専門的な知見を持った委員を選抜してほしい。</p> |